

2 1 4

こんにちは。塾長の大井です。

5期生 M さん受験戦記第 6 回です。

2月4日。もう後がない豊島岡 3 回目。泣いても笑ってもこれが最後のチャンスです。

「受かるまで行ってやる。」そう M さんに約束していた私は、この日また M さんの応援に豊島岡に向かいました。(5 年前のまひろさんもそうでした。)

まひろさんを激励した縁起のいいその場所で M さんを待ちました。ここまで来たら、まず弱気を乗り越えられるかが最初の勝負です。元気がない子やうつむいている子も少なくない中、M さんはとても明るい表情でやって来ました。そして最終確認をすると、昨日私が見せた動きも確実に答えました。

「よし、じゃあ最後に一つだけ、先生から贈るものがある。」

そう言うと、M さんは不思議そうな顔をしました。もう足りないものは一つもないよ。そんな表情でした。

「これ、持ってきたな。」

私は自分の首から TOP 合格メダルを外して M さんの首にかけました。

合格メダルとは私たちから生徒にメッセージを書いて贈り、1/31 に生徒たちからも寄せ書きして私たちに贈ってくれたものです。

全く思いがけないことだったようで、M さんは本当にびっくりしていました。でもすぐに顔中に笑顔がはじけ、「ありがとうございます！絶対効く！絶対受かる！！」と心底うれしそうに言いました。

2つの合格メダルを提げた M さんが豊島岡に入っていくのを見届け、私も心の中で(絶対受かる。絶対受かる。)と何度も唱えながら帰りました。

テスト中もずっと祈り続けました。

午後、最後のテストを終えた M さんが TOP に帰って来ました。

「M、どうだった?!」と尋ねると、「受かった！」とハッキリと答えました。

「先生に習ったことを全部やってきた！受かったと思う。」

そう言う M さんの表情は、やりきった充実感で溢れていました。

まだ合格発表までは5時間近くあります。待つ身としては、永遠にも思える長い時間です。それでも M さんたち5期生は帰ろうとしませんでし

た。

「TOPの掃除する～～！！」と、長く通い続けた教室をみんなで掃除しました。はしゃぎながら戯れながら掃除に興じるその姿は、突如終わりを告げるTOP生活に名残を惜しむようにも見えました。

夕方になり、入試が終わっている5期生も全員が集まって来ました。

すでに合格をとった子だけでなく、まだ決まっていない子も、自分の夢は破れた子も、Mさんの合格の瞬間に立ち合うために集まりました。最初はバラバラに思えた個性派集団は、最後の最後で見事なまでのone teamになっていました。

(次回につづく)

2020年7月20日

大井雄之